

日本産の常緑針葉樹。真っ直ぐに伸びて太く大きく育ち、円錐形の美しい樹形の高木になります。モミの仲間で、クリスマスツリーに使われます。また、長野県の諏訪大社の御柱祭で使われる大木として有名。葉の裏は白い気孔線が目立ち、白っぽく見えることから「裏白松(ウラジロモミ)」と呼ばれています。分布は東北南部～中部地方、紀伊半島、四国の冷温帯・亜高山帯。県民の森のウラジロモミは植栽されたものです。モミの仲間の球果(松ぼっくり)は、一般的なアカマツなどと異なり、松ぼっくりの形では落ちてきません。枝の上に直立して、熟すとバラバラになって落ちてきます。鱗片にくっついていており、球果が開くとはがれて風に乗って飛んでゆきます。稀に球果ごと落ちているものを拾うと大興奮。触れると簡単にほぐれますので、じっくり観察できて楽しいです。厳冬期、県民の森では下枝の先が雪に埋まってしまうため、枝の内側は自然のシェルターとなります。吹雪の時でも中は静かで、冬の森あるきの秘密の場所でもあります。



雄花 2022/5/30



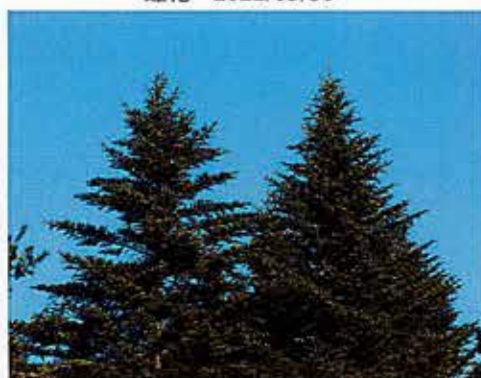
雌花 2022/05/30



葉の裏 2022/9/25



球果 2022/10/3



樹形 2022/9/30



厳冬期の枝の内側 2022/2/16